

アナル・ケリモフ

シュシャー： カラバフ現象

かつて、カラバフ・ハン国の首都であったアゼルバイジャンの町シュシャーは270周年を祝っています。アゼルバイジャンのほとんどの都市を背景に年齢は若く、そのうちのいくつかは、もう2000年または4000年を超えています。城壁内で繰り広げられる出来事の記録、戦争、包囲、さまざまな王朝の治世、衰退と繁栄が数十、数百

劇人バダル・ベイ・バダルベコフ、建築家であったカルベライ・サフィハン・カラバフ、詩人であったカスム・ベイ・ザキル、劇作家のナジャフ・ベイ・ヴェジロフとアブドゥラヒム・ベイ・アフヴェルディエフ、アゼルバイジャンの歴史小説の創始者であったユシフ・ヴェジル・ケメンゼミンリ、独立したアゼルバイジャン民主共和国の主要な理論家の一人、哲学者で社会活動家



のふくよかなボリュームを構成します。それにもかかわらず、若いシュシャは間違いなくアゼルバイジャンの歴史にとって重要な都市のリストに含まれています。さらに、世界的に有名な原住民の数という点では、より多くの「年上の」兄弟よりも先を行っています。

シュッシュの歴史には、真に輝かしい名前が数多く刻まれています。その方は、研究者であり医師でもあるミルザ・ムハンマド・クリ・ハキム、戦士でマエケナスのジャファル・クリ・カーン・ジャヴァンシール、教育者で著名な演

のアーメド・ベイ・アガオグル、音楽理論家のアガラル・ベイ・アリベルディベコフ、作家のサファリリ・ベイ・ヴェリベコフ、カラバフのヘルスケアオーガナイザーであり医師で科学者のアブドゥル・ケリム・メマンダロフ、東洋の記念碑的絵画の天才のカラバフのウスタ・ガンバル、ブルジェヴァルスキーの伝統の継承者、アムダリア地域の地理的研究の榮譽を持つリザ・クリ・ミルザ・カジャール将軍、ポートアーサーの防衛と第一次世界大戦の戦いの英雄、サマド・ベイ・サディフ・ベイ・オグル・メフマンダロフ将



軍もいます。20世紀の初めまでに4万人の住民がいた小さな郡の町のために、リストは印象的です。特に、それらのすべてがこのリストに含まれているわけではないです。優れた才能と命令に対する個人的な勇気に対して授与されて、ロシア帝国の最高の軍事賞である聖ジョージ勲章と同等の黄金の武器を含むメダルをとった軍事指導者のリストだけで1ページ以上になります。ほかに、作曲家や音楽理論家、哲学者や神学者、声が世界中に響いたミュージシャンや歌手もいました。

つまり、小さなシュシャに関連して、ある現象について話すことができます。しかし、そのような結論に十分な根拠があるのでしょうか？

カラバフ・ハン国の創設者であるパナハリ・ハーンは、1752年にシュシャを設立しました。彼は高山の高原に新しい都市を建設し、歴史的なアゼルバイジャンの北西にある地域の住民であるカラバフの人々を住まわせました。そして、これらの人々は、家財道具や道具とともに、数十世紀にもわたって蓄積されてきた膨大な知識の蓄えを持ち込んできました。

まず、この地域は、東アフリカや中東のいくつかの地域とともに、人類文明の最も古い中心地の1つでした。これは、フィズリ市の北西14キロ、グルチャイ川のほとりに位置している有名なアジフ洞窟で考古学者によって行われた驚異的な発見によって確認されています。ほぼ四半世紀にわたってアジフ洞窟を探索してきたアゼルバイジャンの考古学者マンマダリ・フセイノフは「アジフで研究されている川の石で作られた道具の文化は、東アフリカのオールドバイ文化の複合体に近いです。同時に、道具の製造には独特の特徴があり、アジフの下層に見られる道具をグルチャイ文化と呼ぶことができました。グルチャイ文化の時代は120万年よりも古い。」と書いていました。

さらに、なんと洞窟内にクマの頭蓋骨が保管されていた隠れ家があり、ありました。そしてそのうちの1つには、すでにそれらの遠い時代に計算の最初のアイデアが生まれたことを示すノッチがありました。人間の思考における革命を証明するこの発見の重要性を過大評価することは困難です。サイバネティックスの創始者であるノルベルト・ウィーナー、またはア



ルキメデス、ロバチェフスキーよりも、これらの溝を鋭い石で刻んだ未知のハンターは、同様に偉大であります。アジフ洞窟の遠い祖先はアカウントの要素を発明して、数学のような科学の出現の先駆者になっただけでなく、また、もっと重要なことは、知識を保持するために、初めて考えを修正しようとしたことです。

マンマダリ・フセイノフが収集した膨大な資料により、彼は、この地域での人間の労働活動が 200 万年前に始まったという大胆な仮説を立てることができました。したがって、カラバフを人類の祖先の故郷の 1 つとして分類するすべての根拠がありました。

何世紀、何千年も経ち... 何千キロも止まらずに走らなければならない鉄道機関車のように、歴史はゆっくりと加速していきました。カラバフの住民は、住居を建て、牛を放牧し、土地を耕す方法を学びました。紀元前4千年紀の後半に青銅器時代が始まって、それとともに南コーカサスの中央部と東部、北東コーカサス、南アゼルバイジャン、東アナトリアの住民を長い間結びつけた独自のクラ・アラズ文

化が生まれました。銅鉱石の豊富な埋蔵量により、かなり大規模の冶金生産の開発が可能になって、それで、長い期間は、カラバフの特別な役割によって地域の歴史に刻まれています。

そして、もう1つの興味深い事実は、カラバフでの考古学的調査の結果、紀元前 4 ~ 3 千年紀の人口密度が異常に高かったことがわかります。80人から100人の住民がいた新石器時代の村は、互いにわずか1.5~2 km の距離にありました。

2千年紀の後半—紀元前1千年紀の初めコーカサスに鉄器時代が到来し、それとともに敵も現れました。不毛の砂漠を後にしながら、すべてを征服する鉄の武器を装備し、侵略者の大群がエキュメン全体を一掃しました。人類の黄金の子供時代は終わろうとしていました。戦争と襲撃、焼き尽くされた都市と村、文化と伝統の忘却、そしてこの終わりは、地中海の王国の崩壊によって特徴付けられました。作家のロバート・ドリューズが呼んだ「青銅の崩壊」、そのような普遍的な大変動の波



が、カラバフに到達するのに失敗することはできませんでした。しかし、人々が無力だったところを、山が助けてくれました。ウラルトゥの侵略者がナフチヴァン、ザンゲズール、カラバフに侵入しようとしたとき、彼らは決定的な拒絶に遭遇したため、これらの場所への道を長い間忘れていました。南コーカサスの文明プロセスは中断されませんでした。そして、暗黒と混沌が最近繁栄した地中海の都市や州に降りかかった時、アゼルバイジャンの地で新しい文化が成功裏に発展していました。

すでに紀元前3千年紀からアゼルバイジャンの領土では、カラバフが必然的に倒れた影響力の軌道で、より大きな国家形成、さらには帝国の先駆者となった原王国の形成のプロセスが始まります。紀元前4世紀アトロパテナが発生しました - その創設者であるアケメネス朝の太守アトロパットにちなんで最も一般的なバージョンに従って名付けられた州です。賢明な支配者であり、成功した軍事指導者である彼は、カラバフの土地が部分的にそ

の一部になるほど州の国境を拡大した相続人にも満足していました。しかし、この地域の歴史は、紀元前4～3世紀に現在のアゼルバイジャン共和国の領土で発生した伝説の白人アルバニアと関連していることが判明しました。カラバフは、1000 年以上にわたって存在してきたこの州の不可欠な部分となっています。カラバフの貴族は、共通の宗教のおかげで強化された、王室の貴族との親族関係を通じて維持された、共同の軍事作戦で明らかになった強力な家臣の絆によってアルバニアの王とつながっていました。さらに、白人アルバニアの第2の首都であるバルダが彼らの土地に立っていました。一言で言えば、この州はカラバフの人々の出身地でした。カラバフの平原には道路が交差し、川の乱流に橋がかけられ、日干しれんが造りの家々が地下水路のある都市に姿を変え、要塞や見張り塔が戦略的な峠に立ちました。

313年、アルバニア王ウルネールはキリスト教を国教と宣言した。寺院、修道院、礼拝堂



の建設が全国で開始されました。それらの多くはカラバフに保存されています。アルバニアには独自の書き言葉があり、アルバニアの科学者や聖職者によって作成された論文の名前が知られています。残念なことに、それらの大部分はその後アルメニアの聖職者によって破壊されました。

8 世紀、アラブ人の攻撃によりコーカサスアルバニアは独立を失いましたが、カラバフは 13 世紀までアルバニアの君主の支配下にありました。人口のほとんどはイスラム教に改宗しましたが、古い信仰を保持している人もたくさんいました。カリフ制の守備隊によって支配されている国の平坦な部分で、コーランがすぐに聖書に取って代わり、その後山岳地帯で 19 世紀に至るまで、キリストを信じ続けました。ちなみに、寛容なイスラム教徒の支配者は干渉しませんでした。

キリスト教の時代だけでなく、イスラム教徒の支配の期間中、カラバフは文化的成果の

中心であり続けました。9 世紀から 12 世紀にかけて、カラバフのバルダ市は、南コーカサス全体のイスラム教徒の精神生活の中心地でした。この町について、この地域のバグダッドと書いていました。イスラム世界で有名な科学者や詩人は：サイード イブン アムル アブ ウスマン アル アズディ アル バルダイ、アル フセイン イブン スファン イブン イシャク イブン イブラヒム アブ アリ アル バルダイ、マカイユ イブン アフマド イブン サダウェイ アル バルダイ、アブ バクル ムハンマド イブン ヤヒヤ ハラール アル バルダイ、サーディン サダラー アル-バーダイがバルダの出身者です。かれらの名前は今でも敬意を持って記憶されています。同時代の人々によると、バルダの大聖堂のモスクは、その並外れた美しさによって際立っていました。そして、都市の富は東部全体で伝説的でした。

カラバフのもう 1 つの有名な都市は、ベイラガン(バイラカン)でした。貿易ルートの交

差点にあるため、重要な貿易と工芸の中心地となり、バルダの役割と影響力が弱体化した後、コーカサス最大の都市となったのはベイラガンでした。オレンカラの町（ベイラガンの入植地）での考古学的発掘調査では、要塞の壁、大通りと通り、宮殿とモスク、ワークショップとショッピングアーケードが明らかになりました。

その後、壊滅的なモンゴルの侵略が来ました。敵に猛烈な抵抗を見せたベイラガンは、地表から一掃された。抵抗の記憶さえも消し去るために、彼らの方針に従い、モンゴルの征服者たちは抵抗した都市を完全に破壊しようとしていました。カラバフはイルハン朝の支配下に入り、後にエミール・ティムールとティムール朝に取って代わられた。これらすべての出来事の結果として、テュルク系民族グループがこの地域で

優勢になったことは明らかです。13世紀末、「Aja'ib ad-Dunya」（「世界の不思議」）論文の著者は、カラバフには少なくとも10万人のテュルク系騎手が住んでいるように報告しまし

た。

15世紀、カラバフはカラ・コユンルとアク・コユンルのアゼルバイジャン・テュルク系の州の一部でした。アク・コユンル時代の写本の1つで、驚くべき事実が言及されています。9世紀にアラブ人の侵略に対抗して戦ったバベックが率いる大衆蜂起の参加者の子孫、クラミ人の共同体がカラバフの山に隠れていました。そして1501年以来、カラバフの運命は、新しい王朝の創設者であるシャー・イスマーイール・サファヴィーである、南アゼルバイジャン出身のアルダビール首長の子孫によって支配されました。この大胆不敵な司令官は、カタイという仮名を取り、アゼルバイジャンとテュルクの詩の古典となった素晴らしいガゼルと詩を書きました。彼の下で、アゼルバイジャン語は宮廷の言語となり、アゼルバイジャンはサファヴィー朝国家の心臓部となり、基盤となりました。カラバフは、ガンジャを中心とする大きなベイレルベイになりました。それは、将来のイランのシャーであるカジャールのテュルク系家族によって率いられました。次の2世紀は、サファヴィー朝とオスマン帝国の間の一連の戦争によって特徴付けられ、18世紀には、この地域はロシア帝国の軍事的および政治的活動の場となりました。そして、高貴なカラバフのジャヴァンシール家の勇敢な戦士パナハリベイの時代が訪れました。アゼルバイジャンに広がる無政府状態を利用して、彼は独立したカラバフ・ハン国を創設しました。

カラバフ・ハン国の首都が建国されるま





での長い数世紀の間に、戦争と襲撃だけが
あったと考えるべきではありません。もちろ
ん、それらも起こりましたが、ほとんどの時間
は創造的な作業に費やされました。人々は道
路を敷設し、都市を建設し、小屋や宮殿を建
設し、庭を植え、牛を放牧し、詩や科学論文を
書き、空の秘密と地球の内臓を解明しようと
しました。

チュルク世界の最後のスーフィー詩人の一
人、ミール・ハムザ・セイド・ニガリは、カラバフ
について次のように書いています。

「輝き、喜び、きらめく大地、

もし世界が楽園なら、それは楽園よりも美
しい。

祝福されたシェルター、荘厳な空間、
耳が導くところ、ざわめき、会話…」

そのような肥沃な土地は、新しい才能を豊
かに収穫するための呼びかけを待っていました。
そしてシュシャで初めて、詩人で政治家の
モーラ・パナー・ヴァギフの唇から響き渡った。
ヴァギフ語はアシュグの伝説のスタイルに近
く、人々にとって理解しやすく、詩は神秘的な

象徴から解放されています。彼は革新的な
詩人でした。彼が書いたことは、すべての人
にとって身近なものでした。彼の詩は互いに
コピーされ、暗記されました。

ヴァギフといえば、もう一人の人物に言及
する必要があります。彼がいなければ、彼は
創造性のためのそのような条件を決して受け
ることはできなかったでしょう-これはカラバ
フのカーンであるイブラヒム・ハリルです。ヴァ
ギフの才能と教育を賞賛し、彼を宰相に任命
し、彼の友人であり後援者になったのは彼で
した。

シュシャ現象の出現における同様に重要
な役割は、カーン・イブラヒム・ハリルの孫娘、
詩人クルシド・バヌ・ナタヴァンに属していま
す。彼女の家は、街の文化生活の中心地の 1
つでした。彼女が率いる文学と音楽のサークル
「Mejlisi-uns」のメンバーがここに集まり、
会話の主なトピックは文学、詩、音楽でした。
最高のフォークシンガーがナタヴァンの会議に
招待されました-カネンデは 彼女の推薦で、
歌手とそれに同行したミュージシャンがシュシ



シャの他の裕福な家へのアクセスを獲得しました。ナタバズでの夜は、アゼルバイジャンのミュージシャンのプロとしての向上の原動力となりました。音楽生活の民主化とムガムコンサートの出現の基礎を築きました。アゼルバイジャンが出してから、ユネスコは、人類の口頭および無形文化遺産の傑作の1つを宣言しました。

シュシャでは、科学者、音楽学者、詩人であるミール・モースン・ナヴァブが率いる「忘れられた人々のコレクション」(「メジリシ・ファラムシャン」)と「音楽家協会」も大きな威信を誇っていました。彼は有名な論文「Vuzuhul-argam」(「数の説明」)を書きました。これは、東洋の音楽科学の特徴を論じ、パフォーマンスのルールと音楽の知覚の条件を定式化したものです。

また、オリエンタルクラシック音楽の愛好家ハラット・グルの発案により、市内でサークルが組織されました。これはまさに最初の声楽学校の1つと呼ぶことができます。このサークルの生徒の中には、伝説の歌手ガジ・グシがいました。ジャバー・ガリヤグディも同様に有名です。彼が演奏したムガムは、ボーカル愛好家にとって本当のセンセーションになりました。

た。ジャバーの歌声をたまたま聞いた専門家は、彼の声はカルーソよりも強く、音域は2.5オクターブであると主張しました。ナヴヴァブとジャバー・ガリヤグディ・オグルの生徒は、ジャバーが「東洋音楽の真珠」と呼んだ有名な歌手セイド・シュシンスキーが考えられています。セイド・シュシンスキーは、自分のスキルをシュシャの別の出身者であるカーン・シュシンスキーに渡しました。素晴らしいカネンデであり、人々の間で人気となった多くの曲の作者です。

すでに19世紀には、人々はシュシャをアゼルバイジャンの音楽文化の中心として語り始めていましたが、これは決して予想外のことではなく、事実の表明に過ぎませんでした。詩人のサマド・ヴルグンは「シュシャが音楽と詩の発祥地と呼ばれるのも不思議ではありません。」と書いていました。95人の詩人、22人の音楽学者、38人のカネンデ歌手、12人の書家、5人の天文学者、18人の建築家がシュシャに住み、働いていました。1901年、愛好家や慈善家を支援する人々の努力によって、第1回オリエンタルコンサートが開催されました - 実際、中近東の多くの国の代表者を集めた最初のオリエンタル音楽祭です。



まさに、シュシャは本当の音楽の領域であり、それは完全な意味での奇跡でした。このいたるところに音楽と歌が聞こえました。水の行商人が歌い、群れを集める羊飼いが葦笛でメロディーを奏で、通りで遊んでいる子供たちが詩を交換しました。シュシャの住人なら誰も何らかの楽器を演奏したことがあるはずです。ほんの数分でアンサンブルを組み立てることができました。もちろん、音楽なしで行われたイベントは1つ也没有ありません。その下でゲストを出迎え、夜を過ごし、茶屋で会話をしている間、もちろん結婚式や披露宴、スポーツや競馬などをやりました。詩人のセルゲイ・エセーニンが手紙の中で「彼が歌わないなら、彼はシュシ出身ではない」と述べたのは偶然ではありません。

20世紀にシュシャは、才能にとってそれほど実り多いものであることが判明しました。1897年6月22日、クルシード・バヌ・ナタヴァンの死の年に、シュシャで男が生まれ、その声楽は世界中でアゼルバイジャンを称賛しました。彼の名はムルトゥザ・マシャディ・ルザ・オグル・ママドフでした。彼は12歳でコンサート活動を開始し、13歳で最も有名なカネンデになり、人々は彼を「ナイチンゲール」を

意味するブルブルと名付けました。国民的スタイルと世界のヴォーカル・テクニックを融合させた、まったく新しいタイプのシンガーだった。1933年の第1回全連合声楽コンクールでブルブルの演奏を聞いたロシア演劇劇場コンスタンチン・スタニスラフスキー総主教は、歌手に「華麗で明るい才能が成熟したスキルと組み合わせられたとき、何がより良く、より魅力的で、より強くなるでしょうか! あなたはナイチンゲールのように歌い、歌うことはあなたにとって不可欠です。あなたは歌うのをやめることはできません。」と書きました。

しかし、ブルブルの声は単独ではなく、シュシャから響く魅惑的な聖歌隊に有機的に加わりました。ミュージカルの生身のシュシは、イスラム世界のオペラの創始者、ウゼイル・ハジベヨフであり、彼の才能あるペンは、「レイリとマジュヌン」や「コログル」などの画期的な作品を担当しています。彼のオペレッタ「アーシン・マル・アラン」は1913年に書かれ、76か国の187の劇場で上演されました。U. ハジベヨフは、アゼルバイジャン州立音楽院の創設者の1人になりました。

作曲家・指揮者のズルフガル・アブドゥル・フセイン・オグル・ハジベヨフ、指揮者・作曲家



のニヤジ、今では世界中のコンサートホールで聴かれるムガム交響曲の生みの親、フィクレット・アミロフ、卓越した音楽理論家のアシュラフ・ジャラル・オグル・アバソフ、オペラやオペレッタの作者、カンタータと交響曲は、有能な教師であり素晴らしい指揮者であるスレイマン・アレスケロフであるシュシャの原住民または移民でした。最も輝かしいポップスターがうらやむほどの人気を誇るもう 1 人、シュシャの住人は、ラシード・マジッド・オグリ・ベイブトフです。彼はオペラの舞台で歌い、オペレッタ劇場で演奏し、映画に出演し、ソビエト連邦を何度もツアーし、コンサートで数十か国を旅しました。独特のテナーを持っているベイブトフは、最も複雑なボーカルパートを演奏する余裕がありました。

長年、シュシャは音楽界に才能を贈ってきました。何十人ものオペラやポップシンガー、ミュージシャン、指揮者、作曲家が、この珍しい都市を故郷と考えています。そして、1989 年に第 1 回国際フォークロア フェスティバル「ハリブルブル」の会場となったことは非常に論理的です。そして、1991 年に開催された第 3 回のフェスティバルでは、25 か国からパフォ

ーマーが集まりました。しかしながら、すぐに悲劇的な出来事が続き、カラバフ全体で、シュシャでの音楽的および文化的、そして一般的には通常の生活が長い間中断されました。1992 年 5 月 8 日、この都市はアルメニアの軍事組織によって襲撃されました。住民は銃を突きつけられて立ち去らなければならませんでした。難民たちは荷物やスーツケースを抱え、子供たちを抱えて街を飛び出しました...

正当な所有者を追放した後、侵略者は街に「定住」し始めました。これは、これがアゼルバイジャンの都市であるという証拠を完全に根絶することでした。シュシャがアゼルバイジャンのカーンによって設立され、アゼルバイジャン人がそれを建設したことを考えると、この作業は複雑で事実上不可能です。しかし、アルメニアの侵略者は熱意を持ってその実施に着手し、占領の30年の間にかなりの「結果」を達成しました。それらによって引き起こされた被害は非常に大きいため、その範囲の評価はまだ進行中です。ほぼ 300 の歴史的、文化的、宗教的モニュメント、30 の図書館、17 のクラブ、2 つの映画館、8 つの文化センター、8



つの博物館が破壊されました。ナタヴァン、ヒヨドリ、ウゼイル・ガジベコフの破壊された家、中央広場に立っていた彼らの胸像が撃たれ、ヴァギフの霊廟が略奪されました。これはすべて、おそらく世界で最も古い文化の継承者であると宣伝するのが大好きな人々によって行われました。

占領期間中、市内では大規模なプロジェクトは1つも実施されず、家も1つも建てられず、木も1本も植えられず、アスファルト1メートルも敷かれませんでした。代わりに、占領者は大規模な略奪に従事しましたが、これは誇張ではなく、産業ベースに置かれました。シュシャは死にかけていました。占領はさらに10年続き、かつて繁栄していた都市から、一時的なゲストの努力により、遺跡と地図上の碑文だけが残りま。

2020 年の第二次カラバフ戦争の結果は、アルメニアの果てしない武力挑発への対応となり、カラバフとザンゲズール東部の解放でした。数日間の血なまぐさい戦いの後、侵略者

はパナハリ カーンの街から追放されました。シュシャは平穏な生活を取り戻しました。そして、その設立に向けた重要なステップの1つは、アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領がシュシャに国の文化首都の地位を与えるという決定を下したことでした。祭りや競技会、会議や会議はすでにここで開催されており、その主なものは復活したハリブルブル音楽祭です。2022 年 5 月に開催された 5 回連続の最後の会議には、9 か国の代表が参加しました。

それほど時間が経たないことは間違いなく、シュシャは再び東洋の音楽現象として語られるでしょう。その可能性は尽きることがありません。亡命中も自分たちを朔子の住人だと思っていた人々が街に戻ってきます。そして、この驚異的な都市の人々は、才能に腹を立てることは決してなく、それを何度も証明しました。したがって、新しい音楽作品、新しい美しい声、詩人や作家の明るい作品が期待できます。シュシャはまだ発言権があります。★